



嵯峨天皇さまと鷹

「日本最小の鷹「ツミ」」

数年前より、茶屋町の当宮御旅社周辺では春頃になると、「キーキキキキキキッ」という独特な鳥の鳴き声が聞こえておりました。姿が見えず、なかなか何の鳥なのか確認出来ずにおりましたが、先月下旬、御旅社の社殿上でその声で鳴く鳥の姿が確認され、初めて日本最小の鷹(タカ)である「ツミ」という鳥である事がわかりました。

この鳥は、大きさはヒヨドリからハトほどで、見た目は可愛らしい感じですが、顔を見ると眼光は鋭く、クチバシの先端は曲がり、胸には縞模様がある等、猛禽類の姿をしています。元々鷹狩りにも使われていた鳥で、人間を恐れず、民家近くの林などに営巣する鳥ですが、梅田で確認された事はほとんどありませんでした。思いますに、近年、梅田界隈の再開

発で、各所で木々の植樹が行われ、合わせて小鳥なども増え、タカ科の鳥でも生活出来るほどの環境が整ってきた証なのかもしれません。実は、当宮の主祭神であられます、嵯峨天皇さまは、鷹が大変お好きな方でもあられました。特に鷹を使つての鷹狩りを好まれ、『日本後記』などには鷹狩りに出られた記録が散見されます。当時は仏教思想の影響から殺生は好まれない時代でしたが、嵯峨天皇さまは弘仁九年(八〇九)に『新修鷹経』三巻を撰し、その序文において、鷹のたたずまいは君主の姿そのものであるとして、**鷹狩りは君主の娯楽**である事を明確にされています。戦国時代には徳川家康が鷹狩りを好んだといわれ、これ

は鷹狩りとともに庶民の声を聞いていたからともいわれています。嵯峨天皇さまの鷹狩りにも、そうした側面があったのかもしれない。ちなみに『新修鷹経』は世界で二番目に古い鷹狩りの技術書ともいわれています。

弘仁十三年(八二二)に嵯峨天皇さまが、当地梅田に行幸になられて今年でちょうど一千二百年です。その慶年に訪れた小さな鷹。コロナ禍を抜く瑞祥である事を願いたいものです。



菜種守の授与期間について

二月廿五日より、茶屋町の御旅社で授与しております、**菜の花の咲く時期限定の御守「菜種守」**ですが、今春は桜の開花が例年より早かった事を受け、今年の菜種守の授与最終日は四月十日(日)とさせていただきます。(授与ご希望の方は土日午後推奨)



ウメ輪紋ウイルス防除のお願い

花から新緑へ移るこの時期。アブラムシが媒介するウメ輪紋ウイルスが年々その被害規模を拡大しております。感染すると梅の実が正常に結実しなくなる為、感染した梅は伐採しなくてはならず、このままでは春に梅を見る事が出来なくなるかもしれません。人間もコロナウイルスで大変な目に遭っておりますが、梅の木も同様に大変な状況です。梅の木をお育ての方は、アブラムシがつかないよう、**消毒殺虫の防除活動**に何卒ご協力下さい。



今月の社務について

先月廿一日をもって、大阪府などに発出されてきましたコロナ禍の蔓延防止等重点措置が全面解除となった事から、茶屋町の御旅社では**土日午後の御朱印帳への直書きを再開致しております**。なお、鈴緒や手水の柄杓、御祈祷時の御神酒授与の方は大阪府のコロナ警戒信号が赤点灯のままである事から撤去対応を継続しております。



今月の暦

【祭礼】

神武登(三日)：神武天皇崩御の日 神事のみ
明祭(廿日)：道真公の冤罪が晴れた日 神事のみ

【節気】

清明(五日)：気候明るく清々しい頃
穀雨(廿日)：田畑の準備が整い春雨降る頃

【雑節】

春の土用(四月十七日〜五月四日) 土掘りは遠慮

【大安】

四月三日、九日、十五日、廿一日、廿七日

【朔望】

朔月(一日)、上弦(九日)、満月(十七日)、下弦(二三日)

【祝日】

昭和の日(廿九日)、

【旬】

【野菜】 タケノコ、そら豆、山菜類、アスパラガス、甘藍
【果物】 イチゴ、甘夏、ビワ(ハウス栽培)

【魚介類】 鯛桜鯛、サヨリ、シラス、ハマグリ(地蛤)、赤貝
【その他】 桜の花、牡丹、百合、花水木、桐の花



網敷天神社 SNS、地図サイト

編者 網敷天神社

編集 網敷天神社
禰宜(御旅社 神主)
白江 秀知

